

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 7 年 1 月 24 日 (13:00 ~16:00)
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	7 人	1 人	人	11 人

前回の改善計画	アセスメントをより細かい部分まで落とし込み文面から状況把握できるようにした事で細やかなケア内容を共有する。 情報が薄い利用者様については、包括の方や保健師、民生委員の方からも情報収集しどんな人物像だったかなども踏まえて背景も細かく分析する。
前回の改善計画に対する取組み結果	情報の回覧等を行えていて細やかなケア内容の共有まではスタッフ全員で取り組むことが出来た。全員が共通認識持っているかの確認までは至らずにしまった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	2	8	1		11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	1	10			11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	4	6	1		11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2	8	1		11

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・利用者様の状況などは回覧物や朝礼等で情報共有出来ている。 ・利用開始前に必要な情報を家族にも自宅での様子など尋ね取りまとめて共有するように心がけている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・職員間での情報共有は朝礼などで出来ているが、突然の情報については情報共有が出来ていない場合もある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・突然の情報共有については、口頭で伝える・その日のリーダーが共有ノート等で文面化する事で情報を全職員に落とし込むようにしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1 月 24 日 (13:00 ~16:00)	
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛	

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	5 人	2 人	人	10 人

前回の改善計画	ご本人様の状態変化に随時対応できるように送迎時のご家族様への聞き取りを行う習慣をする。
前回の改善計画に対する取組み結果	送迎時のご家族様への聞き取りを行う事でよりきめ細かい支援が出来るようになった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	1	6	3	1	11
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	6	3	1	11
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		5	6		11
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		8	2	1	11

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること ・本人のやりたいことに対する対応は都度行えている。 プランの確認は行って状況変化に対応している。
--------	--

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること ケアプラン変更時に変更点の共有に時間がかかってしまうことがある。 全職員が目標に対しての対応が統一できていない。 職員の入れ替え等に伴い情報共有に時間が要してしまう。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) ご本人様の状態変化に随時対応できるように送迎時のご家族様への聞き取りを行い、全職員が家族・本人の目標「～したい」に対する対応の統一化できるようなシステムの構築を行う。 具体的には、全職員共有のラインワークスで必ず情報を周知する。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 1 月 24 日 (13:00 ~16:00)
3. 日常生活の支援	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	5人	3人	人	10人

前回の改善計画	情報収集を細かい部分まで行い情報共有については申し送りを活用しながら職員周知を徹底できるようにする。カンファレンス等を通して利用者様の状況変化に対応できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	カンファレンス等を通して利用者様の状況変化に対応できるようにする為のケア会議が不定期になってしまっている。 日々のかかわりの中で細かな気付きとして変化の共有は行っていくようにしている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	3	4	3	11
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	3	8			11
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	4	5		11
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5	5	1		11
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	3	6	2		11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 状況と身体変化については常に日常的に共有が出来ている。 ご本人様の状況変化に伴いすぐにサービスの見直しを行うことが出来ている。
--------	--

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること もっとこうしてほしいや、こうしたいなどの気持ちに対して聞き取りがうまく出来ていなかった。 ご家族様と本人の気持ちの相違があり。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 利用者や家族様のこうしたいなどの気持ちに対して聞き取りがうまく出来るために家族を含めたケアカンファの開催を努めていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年1月24日(13:00～16:00)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	6人	2人	人	10人

前回の改善計画	利用者様の背景や出来ることや楽しみについては引き続きご家族様と情報共有を図り、ご本人様が利用するにあたり過ごしやすい環境を整えることが出来るようにする。 地域とのかかわりは町内会行事や回覧版など活用し参加できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域とのかかわりについては、回覧版など活用や町内会行事の参加はできていない。 引き続き、ご本人が利用するにあたり過ごしやすい環境を整えることが出来るようにする。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		7	4		11
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	5	5		11
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		3	7	1	11
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		2	4	5	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
ご本人様何が出来るか、何をしていたか家族とどんな関係性であったかをしっかり把握し、通い時に各自が過ごしやすい環境を提供することが出来ていた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
民生委員や地域のかかわりが出来ていなく、うまく活用するにはどうすべきなのかが課題となっている。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
駄菓子屋を継続し地域の子供たちとの関わりを持っていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年1月24日（13：00～16：00）
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	2人	4人	4人	10人

前回の改善計画	個別ケアを強化するため利用者様への担当決めを行ない細かなモニタリングを実施する。 ニーズの汲み取りに関しては業務日誌の活用を行い、細かな情報をよりタイムリーに発信できるように朝の申し送りでも共有を細かく行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	個別ケアを強化するため利用者様への担当決めを行ない細かなモニタリングを実施する事で本人の状態・ニーズに合わせた柔軟な支援が行えた。

◆ 今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	1	3	6	1	11
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	1	10			11
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	2	8	1		11
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	3	8			11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ご家族様と本人の予定の確認を毎月行い必要なサービスの検討を行っている。 また、病状に合わせた使い方の検討も行っている。
--------	--

出来ていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること ご本人様がうまく言葉にすることが難しい方へのニーズの汲み取り方をうまく抽出することが出来ずにいた。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) うまく言葉にすることが難しい方へのニーズの汲み取り方として、筆談や声掛けした時の反応などで汲み取っていくように職員一同努めていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年1月24日（13：00～16：00）
6. 連携・協働	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	1人	4人	5人	10人

前回の改善計画	地域との交流を活発に図るべく、事業所内の行事への地域住民の招待・参加してもらうとともに、町内会が主催するイベントについて職員が積極的に参加する等体制や環境づくりに取り組む。 また、開催についても回覧板で発信している情報共有を職員間で行うこととする。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域行事や、駄菓子屋を開催することでやや定着してきているような場面が多々見受けられた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？			5	6	11
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？				11	11
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	1	1	2	7	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	6	2	2	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
当事業所は町内会の役員に加わり地域の防災活動や、土砂災害時における弱者の一時避難場所、医療と地域の連絡協議会メンバーとして地域との連携強化を図っている。 事業所に駄菓子屋コーナを設けて地域の子供（園児・小学生・中学生）たちと利用者との交流を図っている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
自治体や地域包括支援センターとの会議には参加が出来ていない。	

次回までの具体的な改善計画	（200字以内）
自治体や地域包括支援センターとの会議には参加が出来ていないが、事業所は町内会の役員に加わり地域の防災活動や、土砂災害時における一時避難場所、医療と地域の連絡協議会メンバーなので、地域での活動について職員が積極的に参加出来るような環境を作っていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年1月24日（13：00～16：00）
7. 運営	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	2人	6人	2人	10人

前回の改善計画	運営推進会議で積極的に意見を聞き取るとともに利用者等の苦情や意見反映については、ミーティング等でタイムリーは共有ができるようにする。 引き続き地域の連絡会については参加しながら地域の一員である事を意識する。
前回の改善計画に対する取組み結果	ご家族様からの意見もすぐに反映させることで地域の一員として考えることが出来ている。 地域貢献の一つで駄菓子屋の開催や町内会のお祭りなどにも参加し町内の意見を直に確認することが出来ている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか？		3	6	2	11
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	2	7	1	1	11
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？		2	6	3	11
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか？		3	5	3	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
地域のおまつりへの駄菓子出店、ホサナホームでの出店を行っておりホサナを知ってもらう活動は出来ている。利用者や家族からの意見や苦情について管理者が把握できている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
事業所のあり方について、職員としての自分の意見を持って、どのようにしていったら良くなるかという職員が少なく事業所として改善すべき箇所が声として上がってこない。	

次回までの具体的な改善計画	（200字以内）
職員一人一人が責任を持ち、業務だけでなくより良い環境で運営出来るように、接遇担当・清掃担当・レクレーション担当等の担当制にする。 その他、オムツ交換研修やボディメカニクス研修等を行う事で、ケアの質の向上に努めていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年1月24日（13：00～16：00）
8. 質を向上するための取組み	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2人	6人	2人	人	10人

前回の改善計画	年間研修の組み込みは引き続き継続していきながら、リスクマネジメント研修として出来る内容の組み込みを行う。 ケアの統一方法の検討を行いケアの質の向上を目指す。
前回の改善計画に対する取組み結果	年間研修の予定を立て計画的に進めることが出来ていた。 必要に応じた研修をうけることでスキルアップにも繋がっていた。 利用者様の状況が変動する中でも状況に応じた研修内容が取り組めた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	3	2	3	3	11
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	1	5	2	11
③	地域連絡会に参加していますか	1		2	8	11
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		4	4	3	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 職場内で実施する研修は原則としてパートを含む全職員を対象として実施している。 職場外の研修については、職員の能力に応じて積極的に参加するとともに研修参加者による伝達講習や内部共有を行うことが出来ている。
--------	--

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること リスクマネジメントの部分では職員間でのやり取りで共有できない部分もあった。 パート職員で研修内容実務に相違があるときもあったため適正な研修内容であるか精査も必要と感じた。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	（200字以内） 年間研修の組み込みは引き続き継続していきながら、リスクマネジメント研修として出来る内容の組み込みを行う。 ケアの統一方法の検討を行いケアの質の向上を目指す。 オムツ研修・AED 研修等外部から招きホーム内で行い、職員一人一人のケアを向上させ質の高い提供を行えるようにする。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年1月24日（13：00～16：00）
9. 人権・プライバシー	メンバー	小川 佐藤 河端 増田 三浦 軍司 古谷 吉田 松田 石宮 南 古櫛

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	1人	2人	5人	2人	10人

前回の改善計画	無意識に行ってしまっているスピーチロックについては改めてお声掛けの注意としてスタッフ間でもスピーチロックの研修などを取り入れる。
拘束についても改めて研修にも組み込み認識の向上を目指す。	
前回の改善計画に対する取組み結果	拘束や虐待については適宜研修内容に組み込む、計画的に実施できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	身体拘束をしていない	11				11
②	虐待は行われていない	11				11
③	プライバシーが守られている	6	5			11
④	必要な方に成年後見制度を活用している		2	4	5	11
⑤	適正な個人情報の管理ができている	6	5			11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用者様への虐待は行われていない。 また、利用者の入浴や本人が恥ずかしいと感じるケアについては同性介助に努めたり、利用者様の話をするときにはなるべくほかの利用者様がいない所での会話を務めている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
身体的虐待についての知識は全職員あるが、スピーチロックの知識不足である。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
身体拘束については、行われていないがスピーチロックが知らないうちに行っている場合がある。 スピーチロック（言葉の拘束）の事例検討会などを行う。	
拘束についても改めて研修日程を組み込みスピーチロックのないホームを目指す。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和7年3月5日

法人名	医療法人社団棕櫚の会	代表者	一木 崇宏	法人・事業所の 特徴	1人1人のニーズに対して柔軟に対応が可能、尊厳を大切にしています。宿泊も可能です。法人内に訪問診療のクリニックを併設しており、医療面からのサポート体制も充実しております。「訪問」も、なじみのあるスタッフがご自宅まで訪問いたします。レクリエーションも随時開催し、楽しみのある環境を整えています。
事業所名	まるごとケアの家ホサナホーム	管理者	小川 剛		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	2人	0人	1人	人	3人	人	7人

項 目	改善計画	改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	アセスメントをより細かい部分まで落とし込み文面から状況把握できるようにした細やかなケア内容の共有する。	情報の回覧等は行えていて細やかなケア内容の共有まではスタッフ全員で取り組むことが出来た。	職員の入れ変わりがあり、個々の理解度が低い場合がある。	突然の情報共有については、口頭で伝える・その日のリーダーが共有ノート等で文面化する事で情報を全職員に落とし込むようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	楽しみのある環境を提供できるように常に考え企画していく。	レクリエーションを考案し、年次計画を立てた。	やってみたいことをどうすれば出来るかを考え簡単にでも実行できるようにするのはどうか	利用者様がやりたいことや出来ることを抽出し活力あるイベントを実行できるような環境づくりをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	医療・介護の相談窓口を開設し地域と連携して支え合う仕組みを考案していく。	町内会の活動へ参加・町内会の会議へ参加・推進会議の開催。	地域の方が、なんでも話せる窓口が必要だと思う。	町内会の会議や推進会議に参加を継続的にしていく事で事業所と地域のかかわりを強くしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のイベントやゴミ拾いなど利用者様主体となったサービスが出来るように回覧板などを職員全員が把握できるようにする。	継続して地域の行事や駄菓子屋を通じて少しでも地域の方との触れ合いの場が出来た。	高齢者だけにとどまらず子供達にも地域にとって認知されてきている	地域のイベントに参加をする・駄菓子屋を継続するなどをしていき地域の子供達との関わりを持っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	より多くのご理解と協力を得て地域と密着し連携していく。	小規模多機能型居宅介護の特性を地域住民方へ説明をし、より多くの方々が利用できるように取り組んだ。	小規模多機能型居宅介護の認知度が低い	運営推進会議を開催することで、地域住民が小規模多機能居宅介護の理解を深め地域の方々が利用しやすい環境の構築
F. 事業所の防災・災害対策	災害時の動きを改めて職員でシミュレーション行う。	地域で支え合え、助け合える環境作りの強化を目指し、防災知識を共有した。	何か災害があった時、地域で助け合える体制作りは大切。	年間スケジュール以外で定期的 に防災訓練を行っていく。

